と云ふてる處へ出て來た子供が、
「お松さんのおばはんと、お龍さんのおばはんと喧嘩して、お米を井戸へ陷めて仕舞ふた。御飯食べられへんウアン……」
「コレそんな事を云ふもんやない」
「マア姐はん左樣か、お氣の毒、濟みまへんが風呂敷一ツ貸とくなはれ」
帶の間から錢入れを出して
「寅チャン、是れでお米を買ふて來とくなはれ、そんでこれお賃に貴方に上げますさ」
「おくしさん、そんな事仕たらいかん」
「大事おまへん、また後から」
「何も云ひなやし」

……

「お母はん、只今」
「甚い遲かつたんやな」
「すみまへん」
「今日は何程儲けて來てやつたんや」

「紙屋はんで二ツ結ひましたが、お金は明日やと云ふてはりますね、乾物屋と砂糖屋と緒屋と結ふて此處に二十錢おます、是れでお酒を買ふて、おかず屋はんが來はつたら何ぞ好きな物を買ふとくなはれ、妾が明日拂ひますよつてに」
「コレおくし、二十錢やそこらでお酒が足れへんがな」
「お母はん、貴女何程飲みなはるね」
「彼の人が來はるがな」
「彼の人て誰だんね」
「八さんが」
「アノ馬方はんだつか」
「コレ何を云ふね。馬方はんやなんて、今お母はんと此の樣な仲になつたら、貴女の爲にはお父ツさんやないか」
「お母はん、あんな人をお父さんやなんて云はんとおいとくなはれ、妾のお父さんと云ふたらお佛壇の中にある位牌より他にお父さんは無い、どうそそんな事を云はんとおいとくなはれ」
「マア此の娘は何を云ふねん、妾を馬鹿にして」
とこんな事は別に腹も立たんのやが今表で長屋の者に馬方と云はれたんが胸にあるので、側にあつ